

入 試 年度	2026 年度	入試時期	I 期入学試験	実施日	2025 年 9 月 17 日
課程	博士前期課程	研究科	農学研究科	専攻・コース	農業経済学専攻
入 試 方式	一般入学試験、 外国人留学生入学試験		試験科目	専門科目	
「出題の意図」					
本設問は、農業生産段階における外部性への対応（設問Ⅰ）と、消費段階における行動変容の促進（設問Ⅱ）という、環境政策の両輪を統合的に理解しているかを問うことを意図した構成となっている。					
「解答」または「解答例」					
【解答例（採点時の観点）】					
設問 1					
農業由来の環境問題の特徴について、「外部性」という言葉を用いて説明しなさい。					
解答例					
農業由来の環境問題は、負の外部性として理解される。外部性とは、ある経済主体の行動が市場取引を介さずに第三者に影響を及ぼす現象であり、農業生産に伴う環境負荷が私的費用に十分反映されない場合、社会的に過剰な汚染が生じる。					
農業環境問題の特徴の一つは、この外部性が主として面源（非点源）汚染として発生する点にある。肥料や農薬の流出、温室効果ガスの排出などが広範な農地から拡散的に生じるため、排出量の測定や監視が困難であり、汚染と被害の因果関係も特定しにくい。その結果、排出者への責任の帰属や課税・規制による内部化が難しくなる。					
このため農業分野では、排出量に基づくピグー税の適用が技術的・制度的に困難であることから、環境保全型農業への直接支払いや投入規制などの間接的な政策手段が重要な役割を果たす。また、農業は景観や生物多様性といった正の外部性も有するため、負の外部性の抑制と正の外部性の促進を組み合わせた政策設計が求められる。					
設問 2					
環境問題に対する主体的な意識が十分に形成されていない消費者に対し、その行動の変化を促すためには、どのような政策的アプローチが効果的だと考えられるかについて論じなさい。					
解答例					
環境問題に対する意識が十分に形成されていない消費者の行動変容を促すためには、単一的手段ではなく、複数の政策を組み合わせたアプローチが重要である。例えば以下のアプローチが考えられる。					

第一に、情報提供・啓発である。エコラベルやカーボンフットプリント表示は、環境負荷という外部性を可視化し、消費者の認知を高める役割を果たす。ただし、情報提供のみでは、知識が行動に結びつかない場合も多い。

第二に、価格メカニズムによるアプローチである。炭素税や環境税などにより環境コストを価格に反映させることで、消費者の意識に依存せず、相対価格の変化を通じた行動変容が期待される。一方で、低所得層への影響といった課題も存在する。

第三に、規制や基準によるアプローチである。省エネ基準や有害物質規制のように選択肢自体を制約する手段は、消費者の意識水準に関わらず一定の効果を持つが、選択の自由との関係が論点となる。

第四に、行動経済学的アプローチである。デフォルト設定や社会規範の提示、フィードバックなどを活用することで、強制や価格変更を伴わずに行動を誘導することが可能である。

第五に、教育的アプローチも重要である。学校教育や社会教育を通じて環境に関する知識や価値観を形成することは、中長期的な行動変容の基盤となる。

以上より、環境意識が十分でない消費者に対しては、価格やナッジのように意識に依存しない手段を活用しつつ、情報提供や教育を通じて段階的に意識形成を促す政策の組み合わせが有効である。

合否判定の方法及び基準

入学試験は農学研究科のアドミSSIONポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミSSIONポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。